



はこべら

学校教育目標：豊かな心を持ち、心身ともにたくましく、自ら学ぶ子供の育成

響かせよう 響き合おう ～今に響け 未来に響け～

時津町立時津東小学校 学校だより 第 13 号

令和 7 年 3 月 24 日 文責：校長 村井 宏之

第四十九回卒業式を終えて



三月十八日(火)、在校生の心のこもった準備により、第四十九回卒業式が盛大に執り行われました。冬に逆戻りしたかのような寒さの中、九十八名の卒業生全員が揃い、静けさの中にも温かさを感じる素晴らしい卒業式となりました。

に、学校の「顔」として立派に役割を果たしてくれた六年生。彼らの「優しさ」と「熱意」は、東っ子みんなの心に深く響き、大きな影響を与えてくれました。私自身、六年生が一年生と優しく関わる姿を見るのが大好きでした。手をつないで仲良く登校する姿、笑顔で優しく話しかける姿。そのどれもが優しさに溢れ、本当に素敵でした。また、運動会の応援団結団式で見せてくれた「熱意」も忘れられません。六年生の力強い声が校庭に響き渡り、学校全体が一つになったあの瞬間、胸の奥から熱いものがこみ上げ、この子たちならきっと学校をさらによい学校にしてくれると確信しました。運動会やこべら祭り、そして日々の授業においても、六年生は常に輝いていました。心から感謝しています。期待通り、「声の響く学校」という素晴らしい伝統を築いてくれました。

これから卒業生たちは、それぞれの道を歩んでいきます。大きな夢に向かって羽ばたく人もいれば、目の前の小さな目標に向かって一歩ずつ進む人もいます。よう。どちらの道を選んだとしても、大切なのは自分自身を信じることです。これからの人生は、決して平坦な道ではありません。しかし、「将来の夢」を単なる夢で終わらせてしまうのか、それとも目標を変えて努力し、実現させるのか。それを決めるのは、他の誰でもなく、自分自身です。

卒業生たちが自らの手で未来を切り開き、夢を実現してくれることを、そして、卒業生九十八名一人一人の未来が幸多きものであることを心から祈念しています。

卒業証書の前でパチリ!

時津東小PTAが「オリジナル卒業証書パネル」を購入し、卒業式当日に準備をしてくださいました。多くの卒業生がパネルの前で記念撮影をしていました。思い出に残る一枚になったようです。



東っ子 みんなはなまる!

本日、令和六年度の修了式を迎えました。今年度は、東小学校が目標とする「声が響く学校」に大きく近づき、さらに一歩前進できた年になったと感じています。授業中、子どもたちの発表や反応の声が以前にも増して響き渡るようになりま

離任式

このたびの人事異動で左記のとおり、本校職員も退職・異動することになりました。時津東小学校の子供たちのために、誠心誠意尽くしてくれた職員ばかりです。別れはつらく、寂しいですが、異動する職員の新しい学校でのますますの活躍を祈ります。

【異動及び退職する職員】

満田 浩一	教諭	退職
楠本 紗菜	講師	退職
村井 宏之	校長	時津町立時津北小学校(教諭)
吉田 健介	主幹	平戸市立津吉小学校(教頭)
東原 睦	教諭	時津町立時津北小学校
梅津 隆	教諭	時津町立鳴鼓小学校
山田 紳佳	教諭	時津町立時津小学校
下村実加子	教諭	日本人学校
諸口 直也	教諭	波佐見町立中央小学校
久保田由美子	養護	長崎市立諏訪小学校
仲村可南子	養護	諫早市立小野中学校
穴見 由紀	支償	時津町立鳴鼓小学校



「叱らないが子どもを苦しめる」(藪下遊・高坂康雅著、筑摩書房、2024)からの紹介シリーズ、今回は「叱る」時のマナーについてです。これは保護者だけでなく、教師など子どもに関わる全ての大人が意識してほしいことで、4つ挙げられています。



一つ目は、「10分を超えない」ことです。これ以上長くなると、子どもは何について叱られているのか、何の話だったかとの意識は薄れ、叱責されたことにか意識が向かないようです。これは叱る側の大人も「結局あなたは〇〇なんだよね。」「この間も～だったよね。」など決めつけてしまったり、論点がずれてしまったりすることがあるので気を付けたいところです。「短く、端的に伝える」意識が大切なようです。

二つ目は、「人格を否定しない」ことです。一つ目のマナーのように話が長くなったり、問題となる行動が度重なったりすると、してしまったこと(問題行動)より、してしまった本人(人格)を否定することになりかねません。「罪を憎んで人を憎まず」の心がけではないでしょうか。

三つ目は、「他の子と比べない」ことです。家庭ならば兄弟や姉妹と、学校ならば他の子と比べた発言をしてしまいがちです。「〇〇ちゃん(兄弟・姉妹・他の子)はできるとにね～」ではなく「あなたはここをがんばるといいね。」または「□□(できていること)はできたので△△(課題)もできるはず!」との声掛けです。

四つ目は、「子どもといえどもすぐには変わらない、思い通りにはならない」との認識を持つことです。大人でも、しないといけないことは分かっているにもかかわらず実行には移せない、定着できないことは多数あります(ダイエットそしてリバウンド、家の片づけ・掃除など)。この認識を持ちながらも、前号にあるように、「結果は二の次に考え、子どもの不穏行動と関わり続ける」ことが大切とのこと。そしてこの大人の態度こそが、うまくいかない、思い通りにならないことへの関わり方の手本と成り得るとのことです。

繰り返しになりますが、私たち大人が目指すべきは「本人の自立」です。本人の今だけを見るのではなく、10年後15年後に自立ができているよう、時には心を鬼にすることも必要だと考えます。したくない、帰りたいなどと、涙ながらに訴えてくる子どもには、「『じゃあしなくていいよ』と言ってあげるのではなく、『しないといけないことはがんばれ(≠良い結果を出す)』と言ってあげることが本当の優しさだと思うよ。自分のためにがんばれ!」と私は励ましています。

最後に宿題についても記述があったので紹介します。宿題は、学習内容を定着させる上で大切ですが、それだけでなく「社会からの要請にはある程度は応えていく」とのマインド(意識)を身に付ける上でも大切とのこと。子どもを社会化させていく上で大切とのこと。これを読んで、「宿題は先生とあなたの約束です!」と子どもの頃担任の先生に言われて、「そんな約束はしていないのに…」と思ったことを思い出します(口には出していません)。でも今なら小学生の自分に、担任だった先生と同じことを言うだろうと思います。



保護者の方におかれましては、今後も何か悩み等ありましたら学校にもご相談ください。一緒に考えていきたいと考えています。1年間御一読いただきありがとうございました。